

山形県 河北地区産地計画 (申請者名：河北町)

1. 取組の概要

深刻な人口減少・高齢化に伴い、域内マーケットの縮小、農業者の後継者不足等の諸問題が生じている中、生産者の所得の確保と生産基盤の維持・強化、さらには海外での知名度向上による国内市場への波及効果を図るため、「かほくイタリア野菜」の輸出にも取り組むこととなった。

主な取組内容は次のとおり。

- 輸出先のニーズの把握（取組内容：レストランフェアの開催、消費者動向の調査）
- ロットの確保（生産体制の確立、企業組合かほくイタリア野菜研究会の運営体制強化等）
- 輸出先の規制への対応（植物検疫条件をクリアする品目の段階的拡大、防除体系の確立等）
- ブランド確立に向けた情報発信（SNSの公式アカウントの開設、ホームページの制作等）

2. G F P グローバル産地形成の取組内容

計画策定

- ・輸出に対し知見のある者が参画し、G F P グローバル産地計画を策定する。

輸出目標（令和4年）

○輸出額：15,600,000円 ○輸出量：12t ○輸出先国：香港、タイ、台湾

生産・加工等の体制構築

海外のニーズに対応したグローバル産地の形成に向けて、次の取組を実施

○ロットの確保

香港の一般消費者はレストランに対し、美味しさだけではなく目新しさや流行等を求めており、産地側もレストランのメニュー改変への対応が必要となるため、生産体制の確立（他作物からの転換による栽培面積の拡大や品目の増加等を通して、提供するイタリア野菜の種類を季節や需要に合わせて変更し得る出荷体制の確立等）及び企業組合かほくイタリア野菜研究会の運営体制強化（会員の増加に向けた取組等）に取り組む。

また、現地の需要に応じたロットの確保を図るため、気象条件の違いを利用した産地間リレーの拡大に向けて、他産地との連携を検討する。

○輸出先の規制への対応

カントリーリスク軽減の観点から輸出展開先のバリエーションを持たせるため、専門機関の指導を仰ぎながら、香港以外の輸出先においても、植物検疫条件をクリアする品目を段階的に拡大していくとともに、現状の防除体系の把握と残留農薬検査を行い、把握内容及び検査結果と輸出先候補国の基準とを比較しながら、基準をクリアするための防除体系の確立に努め、研修会等の開催を通して農薬規制への対応方法を各生産者に周知していく。

○G A P への取組

G A P の知識を高める取組を推進し、認証取得に係る支援制度を活用しながら各種 G A P の認証取得を目指す。

山形県 河北地区産地計画 (申請者名：河北町)

生産・加工等の体制構築

事業効果の検証・改善

○輸出先国のニーズの把握

イタリア野菜に対する現地のニーズを把握するとともに、競合する産地（本場イタリアを初めとする第三国）のイタリア野菜と河北町産のイタリア野菜とを比較しながら、消費者の嗜好について検証を行い、検証結果を各取組主体にフィードバックするため、香港においてレストランフェアを開催する。

開催に当たっては、将来的に「かほくイタリア野菜」ブランドを香港内で確立し、他国産との差別化を図るため、単に商品の特長だけでなく、背景にある生産者の声や生産場所などの情報、作付段階からオーダーメイドが可能である等の他地域にない特長を現地レストランのシェフに説明したうえでメニュー開発をしてもらい、現地実需者や一般消費者に対して当該メニューを提供することで、イタリア野菜に対する現地のニーズを把握する。

また、生産者と現地実需者との間で意見交換を行う機会を設けるほか、フェアを通して収集・分析した香港の消費者動向や現地実需者のオーダーを商品のブラッシュアップに生かすなど、P D C A サイクルを円滑に行う取組みを進め、生産者の所得向上や「かほくイタリア野菜」のブランド力強化に繋げる。

その他

「かほくイタリア野菜」のブランド確立・輸出拡大を図るとともに、河北町のファンをつくり、将来的に観光客や移住定住者を河北町へ導くため、情報発信機能を強化

○SNSを活用した情報発信

FacebookなどのSNSで公式アカウントを開設し、認知向上を図る。

○ホームページの制作

レストランフェアの基本的な情報や商品、イベント情報など、広く情報発信を行う。

○パンフレットの作成

パンフレットを作成し、取扱商品や出品事業者、河北町の情報などを発信する。

3. G F P グローバル産地計画のアウトプット

○海外での取扱いにより国内外での知名度を向上させ、河北町ブランドを確立

○イタリア野菜の情報発信に伴い、河北町の交流人口・関係人口・定住人口を獲得

○圃場見学や収穫体験ツアーなどを企画し、外国人旅行者数を増加